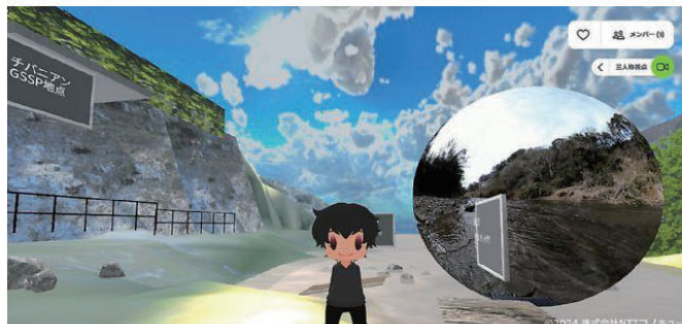


チバニアン
の地層を見学できる
仮想空間Ⅱ
いずれも市原市提供



チバニアン仮想空間でGO！

市原市は、インターネット上の仮想空間「メタバース」で、市内にある貴重な「チバニアン（千葉時代）」の地層を見学できるサービスを始めた。千葉商科大学（市川市）、NTT東日本と連携した取り組みで、市原市は「現地に來ることが困難な人にもチバニアンを伝える」としている。

市原市と千葉商大・NTT東が連携

チーム「DOOR」を使って製作した。スマートフォンのアプリからアクセスすると、画面上に地層が3次元で再現される。参加者は、自分の分身となるキャラクター「アバター」を通じて、現地の地層や化石を見学したり、担当者のアバターから詳しい話を聞いたりできる。

地層や77万年前の世界を再現

アバターが進むごとに景色が変わり、ビジュアルセンターや約77万年前の世界を再現した空間もあり、解説動画や資料も見ることが出来る。今後、空間を活用した集客イベントなどを企画している。



メタバース製作のため現地を視察する千葉商科大の学生ら

市は、行政サービスへのメタバースの活用を探る検証を始めており、チバニアンはその第1弾。市民のメタバースへの関心度や利用実態を来年3月末まで検証する予定。チバニアンは約77万4千～12万9千年前の地質年代区分の名称で、命名のきっかけとなった地層が市原市田淵の養老川沿いの崖に残る。地磁気の逆転がわかる貴重な痕跡として、2020年に国際標準模式地として認定された。市は観光に力を入れており、昨年度は約1万5千人が足を運んだ。

市は、メタバースでチバニアンを知ってもらい、現実社会での観光客増加につなげたい考えだ。仮想空間は市のホームページから無料で閲覧できる。

（前田基行）

『朝日新聞』2024年5月27日付＜地域面＞